# ひまわり通信

平成31年 **5月号**

☆5月のグルメデー☆

「すき焼き」

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1日<br>手芸クラブ<br>ゲーム | 2日<br>将棋<br>ゲーム | 3日<br>書道教室<br>体操 | 4日<br>フラレインボー<br>体操 |
| 5日<br>休み | 6日<br>詩吟・将棋<br>ゲーム | 7日<br>ゲーム | 8日<br>手芸クラブ<br>カラオケ | 9日<br>将棋<br>ゲーム | 10日<br>書道教室<br>グルメデー<br>ゲーム | 11日<br>ドッグセラピー<br>脳トレ |
| 12日<br>休み | 13日<br>詩吟・将棋<br>カラオケ | 14日<br>体操 | 15日<br>手芸クラブ<br>ゲーム | 16日<br>将棋<br>ゲーム | 17日<br>書道教室<br>ゲーム | 18日<br>カラオケ |
| 19日<br>休み | 20日<br>詩吟・将棋<br>ゲーム | 21日<br>ゲーム | 22日<br>料理クラブ<br>体操 | 23日<br>将棋<br>体操 | 24日<br>書道教室<br>ゲーム | 25日<br>ゲーム |
| 26日<br>休み | 27日<br>詩吟・将棋<br>フラパステル<br>体操 | 28日<br>体操 | 29日<br>手芸クラブ<br>ゲーム | 30日<br>将棋<br>カラオケ | 31日<br>書道教室<br>ゲーム | |

## デイサービスで何ができるのか？

新年度がスタートして、早くも約1ヵ月が過ぎました。世間では、進学や就職、転居などにより、新たな環境で慣れない生活を送っている方が多い季節でもあります。「新たな環境での生活」は、夢や期待がある一方で、とても大きな「不安」もあると思います。誰しもに不安はあると思いますが、高齢者や体が不自由な方にとっては…と考えると、どうでしょうか？

今回取り上げる事例は、急に思いもよらない片麻痺となり、入院前とは全く違う生活になってしまったご利用者と、その方を支えるご家族の、退院～現在に至る、約 2 か月半のお話です。この事例を通して、福祉事業所として支えていく、ということを改めて考えてみました。

Bさん：77 歳、女性。外科的手術後、脳梗塞を発症し、後遺症で左片麻痺となる。回復期病棟にて 2 か月半リハビリを実施。介助式車椅子を使用。座位保持は可能だが、食事を除く日常生活動作や立位を伴う全ての動作において介助が必要。ご主人は長期入院されており、3 人の娘さんが、仕事をしながら役割分担し関わっている。自宅は、賃貸アパートの 3 階で、次女さんと同居。

Bさんとご家族に初めてお会いしたのは、退院 10 日前に行われた退院前カンファレンスの席でした。後にこの時の心境を長女さんに尋ねると、介護保険サービスをどのように利用すれば良いのか？どんな生活になるのか？等、10 日後に迫った自宅での生活の全体像が想像できず、「自分はとてもポジティブ思考な性格ですが、それでも大きな不安がありました。」と話してくださいました。

退院前カンファレンスでは、病院のスタッフから「病状の経過と現在の状態について」の説明があり、その後「今後利用していく介護サービスは何が必要か」を決定していく話となりました。

決まったことは、デイサービス、訪問介護、訪問看護のサービスを利用し、福祉用具レンタルでベッドと車椅子を借りること、でした。具体的には、デイサービスの利用は曜日で固定せず、週 3 回程度、同居の次女さんの仕事の日に合わせて臨機応変に対応していくこととし、朝の送り出しには訪問介護を利用。また、訪問看護は週 1 回入ることになりました。

そして迎えた退院日。デイサービスとしては、少しでも早く自宅に行ってBさんとご家族にお会いし、実際に生活する環境を見て、「生活をしていくイメージの共有」と「当面の目標の確認」をすること、新しくデイサービスを利用することへの不安を解消したいと考え、その日の午後に、生活相談員と理学療法士で自宅を訪問しました。

環境面でまず目についたのが、アパート 1 階の共有スペースに段差があるがスロープがない事、自宅玄関は狭く段差がある上に、クランクのようになっていることでした。退院から帰宅した時、玄関は長女さんと次女さんで車椅子を持ち上げて、斜めにしながら何とか通った、とのことでした。どうするのが良いか、実際に試しながら考えた結果、車椅子のフットプレートを外して、前輪を浮かせながら通る、ということでうまくいくことがわかりました。

生活面では、食事を含めほぼベッド上で過ごされる、とのことで、活動量も一気に減ることが予測されました。

病院は環境も整い、専門のスタッフが身の回りのことに関わりますが、自宅に帰った途端、環境も変わり介護する人も、今まで介護経験のないご家族です。車椅子とベッドでの乗り移りも、「病院で練習したしできると思ったけど、帰って実施してみたら大変だった。」と話され、環境が変わって難しかった様子が伺えました。

車椅子を操作しながら、自分の席に戻ろうとしておられる一場面です。人を呼ばなくても、自分で移動できる喜びを実感しておられます。
とても器用に片手片足で操作されていますよ(^^♪

B さんは、介護を担う娘さん達を気遣い、「自分でトイレに行けるようになりたい」と言われましたが、現実的には、「ご家族の軽介助によりベッド横のポータブルトイレに行く」ということが、当面の目標であると確認しました。

また、デイサービスに来所してからは、日中起きている必要があり、活動的に過ごされる方がたくさんおられます。早く、デイサービスの利用に慣れ、他者と交流を持ちながら、活動的に過ごしていただくために「座位の耐久性を高めること」「車椅子を片手片足駆動し移動できる能力を獲得すること」「トイレなどの立位を伴う動作の能力を高めること」を目的とし、機能訓練を実施することになりました。

その後は、デイサービスだけでなく、順調に各サービスの準備も整い、役割や目的の分担をしながら、新たな生活を開始できたと思います。ただ、生活全体を考えると、サービスを利用している時間は一部にすぎないので、大変な思いや不安は強かったと伺っています。

2か月経った今では、立位能力がぐんと高まり、B さんも以前よりしっかり立てるようになったと実感されています。ご家族からは「前より立てるようになったからトイレ介助が楽になった。」との声も聞かれました。また、車椅子の片手片足駆動が上手になり、デイサービスのフロア内は自分で移動できる場面も増えています。B さんからは、能力の向上を感じる中で、「今は化粧をしていないけど練習して眉毛をかきたい」「周りの人を見てうらやましいと思う。見るもの全てがうらやましい。だから歩けるようになりたい。」「歩いて会いに行きたい人がいる。」など、たくさんのポジティブな希望が聞かれるようになっています。誰に会いたいの？と聞いても、「内緒。歩いて会いに行けたら教えてあげる。」と、なかなか教えていただけませんが…((´∀`*))

B さんの事例を通して、物的にも人的にも環境の整った病院から、あらゆる部分で限られた環境である自宅での生活へ、本人・家族が不安なく移行することの大切さを改めて感じました。

振り返ってみると、退院前からも、自宅に帰ってからの問題や不安を様々な視点から予測し、事前に解決・解消できるよう、病院やケアマネジャーと一緒に準備・実行できることが、ひまわりとしてもまだまだあったのではないかと思っています。

今回取り上げた事例は、どなたでも、同じような境遇になりうる可能性がある事例だと思います。サービスの利用に関わらず、不安な時や困りそうな時、相談等あれば、いつでも声をかけてくださいね☆


ふれあいセンター協同
デイサービスセンターひまわり　ふれあいセンター協同２階
安佐南区西原九丁目８－２２
電話：874-4085　FAX：874-4093　管理者：鬼塚


●写真の掲載につきましてはご利用者様・ご家族様の了解を頂いています。

**昼食付無料体験利用実施中！！☆お気軽にお問合せください☆**